

# あいち病害虫情報 最新情報

平成30年 6月15日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 梅雨入りは平年より2日早い

6月6日頃に梅雨入りしたとみられます。6月14日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の天候は平年に比べ曇りや雨の日が少ない見込みです。

## いもち病（葉いもち）

葉いもちは、例年6月下旬から発生し始めます。葉いもちを対象とした育苗箱施薬をしていない場合は、葉いもちの早期発見、早期防除に心がけましょう。なお、本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第1号」に葉いもち感染好適日の判定結果を掲載しましたので、参考にしてください。

## ウンカの飛来状況

セジロウンカなどのウンカ類やコブノメイガは、梅雨前線の活動に伴い断続的に飛来します。ほ場の観察をしっかりと、発生状況の把握に努めてください。なお、飛来の状況はウンカ情報として適宜提供していきますので、防除の参考にしてください。

## 斑点米カメムシ類

予察灯においてミナミアオカメムシが捕獲されています。本虫は、コムギ収穫後、タデ科雑草やネズミムギ（イタリアンライグラス）で生息しています。また、カスミカメムシ類は、畦畔、土手及び休耕田などで出穂したイネ科の雑草で繁殖します。ほ場周辺の除草を徹底し、繁殖を未然に防ぎましょう。

## 果樹の病害

ブドウべと病は、5月下旬の発生量が平年に比べて多く、発生時期もやや早い状況でした。6月上旬の調査でも果房に発生を確認しているほ場があります。降雨が続くと短期間に発生が拡大します。発病部位は見つけ次第除去し、適切に処分するとともに速やかに防除しましょう。6月1日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第3号」を参考にしてください。

ブドウ晩腐病の病原菌は、6月から7月に最も多く飛散するため、この時期に降雨が多いと発生が多くなります。昨年発生が多かったほ場では特に注意し、発病果房は見つけ次第除去しましょう。

ナシ黒星病は降雨により発生が拡大しますので、昨年多発したほ場では特に注意し、防除を徹底しましょう。

モモせん孔細菌病は、風を伴った雨で発生が拡大します。風当たりの強いほ場では特に注意しましょう。品種によっては収穫が始まっているので、農薬の使用にあたっては、収穫前日数や周囲への飛散に注意しましょう。

カキの角斑落葉病及び円星落葉病の病原菌は、6月上旬から7月中旬に最も多く飛散し、感染します。予防に重点をおいて、防除を実施しましょう。

## チャノキイロアザミウマの発生に注意！

チャノキイロアザミウマは、ほ場周囲のイヌマキ（防風垣）における生息調査（10新梢の払い落とし虫数）において、5月下旬のウンシュウミカンで平年に比べて多く、6月上旬のブドウでもやや多い状況で、注意が必要です。黄色粘着トラップでは、蒲郡市の誘殺数がやや多い状況です。

本種は軟弱な葉や新梢で増殖しますので、不要な枝は取り除くなどの栽培管理に注意しましょう。ウンシュウミカンでは、6月上旬から7月にかけて果梗部の被害が発生しやすくなります。ブドウでは、袋かけまでに防除を徹底しましょう。

本種の防除適期は成虫の発生ピークです。アメダス観測地点において有効積算温度を利用した第3世代の成虫発生ピーク予測日は、中山間部に位置する稲武を除いて**6月30日から7月6日**で、前年に比べ**5日から9日早くなる**と予測します。各地点ごとの予測日等は本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第2号」を参考にしてください。発生ピーク予測を参考に薬剤防除を実施しましょう。カンキツにおける防除対策は、6月1日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第2号」も参考にしてください。

## 果樹カメムシ類

チャバネアオカメムシの予察灯の誘殺数は、5月中旬に多く誘殺された後、現在は平年並になっています。一方、ツヤアオカメムシの誘殺数がやや多くなっています。夜温が20℃を超えるこの時期は、果樹カメムシ類の活動が活発になるので、例年被害が多い園では、飛来状況に注意し、飛来を確認したら防除を実施しましょう。4月3日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第1号」、5月25日発表の「果樹カメムシ情報第2号」を参考にしてください。

## ナシヒメシンクイ

フェロモントラップにおけるナシヒメシンクイの誘殺数はおおむね平年並ですが、一部やや多い地域があります。今後は途切れなく発生し、世代数を重ねるほど虫の密度が高くなります。モモ、ナシでは果実が食害されますので、収穫前日数に注意して防除しましょう。

## アブラナ科野菜のチョウ目害虫

キャベツなどのアブラナ科野菜において、残渣は、秋冬作におけるコナガなどチョウ目害虫の発生源となります。収穫終了後は残渣を適切に処分しましょう。

## トマト黄化葉巻病、トマト黄化病、キュウリ黄化えそ病の伝染源を減らしましょう！

施設トマト（促成・半促成栽培）の栽培が終了する時期です。タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）、コナジラミ類はトマト黄化病（TOCV）を伝搬します。次作トマトが黄化葉巻病や黄化病に感染しないように、栽培終了後、施設を密閉してコナジラミ類を死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

施設キュウリでは、ミナミキイロアザミウマがキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を伝搬します。次作キュウリが黄化えそ病に感染しないよう、栽培終了後、施設を密閉してミナミキイロアザミウマを死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

## イチゴのハダニ類

ハダニは乾燥条件を好みます。空梅雨の場合、好適な条件となるので、親株床での発生状況に注意し、防除を徹底しましょう。

## キクの病害虫

白さび病は例年、梅雨期に感染が多くなります。発病が見られるほ場では、被害葉を切除して適切に処分するとともに、同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820